AINU
THANKS GIVING

第14回 アイヌ感謝祭

首都圏に5千人から1万人が暮らすと言われるアイヌ民族。
大きく変わりつつある大地や自然、
そしてヒトの姿に深く思いを馳せつつ
首都圏アイヌの活動に連なる人々に
感謝を捧げる場を今年も開きます。

オープニング

「タプカラ」　貝澤太一
『主催挨拶』　沖津翼

イタク/お話

貝澤太一
親川志奈子

ー休憩ー

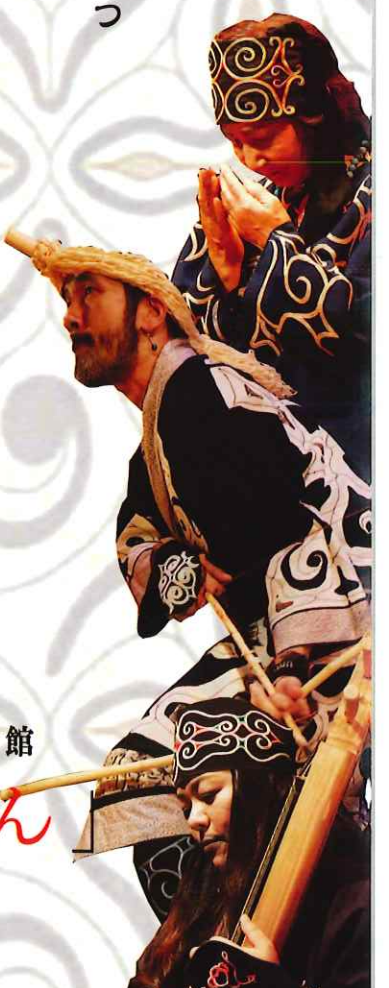
ウポポとリムセ/歌と踊り

「アイヌの子守唄」宇佐陽莉
「ユカラ」　成田英敏
Kacalisian Music Group 薪傳樂團（台湾原住民族パイワン）
在日台湾原住民連合会（台湾原住民族タイヤル・セデック・アミなど）
ナー・ハウ・エ・ファー（ニュージーランド先住民族マオリ）
「ウポポとリムセ」　ペウレ・ウタリの会
「エムシ リムセ/剣の舞」　宇佐幸将/沖津翼

エンディング

ポロリムセ





日時
2026
12/05 (Sat)
12:00開場
12:30開演　16:00終演

会場
品川区立総合区民会館
「きゅりあん」
小ホール
JR大井町駅 徒歩1分

当日 2500円　前売り 2000円
（中学生以下 1000円）
※満席になり次第予約締め切りとなります。
当日券の販売も中止となりますので予めご了承ください。



2026 IN TOKYO

-パフォーマンス-



アイヌの歌と踊り　**ペウレ・ウタリの会**

1964年に阿寒湖アイヌコタンでアイヌ民族と和人の親睦団体として発足。現在は主に首都圏に暮らすアイヌと非アイヌ（和人など国籍・民族を問わず）とがともにアイヌ語・アイヌ文化を学びつつ、日本の先住民族であるアイヌの実際をアピールする活動を続けている。ペウレ・ウタリとは「若い仲間」という意味。



アイヌ語の子守唄　**宇佐陽莉**

小学校4年生。2025年大阪万博出演。
3歳からイタカンロー（アイヌ語弁論大会）に出場。家族でアイヌ文化伝承を行っている。



アイヌ語の語り「ユカラ」　**成田英敏**

ペウレ・ウタリの会所属。大学や市民講座などでアイヌ語講師をしているが、元々は漫画家。
アイヌ民族を題材にした漫画作品『アコロコタン』（双葉社）を刊行。



マオリの歌と踊り　**ナー・ハウ・エ・ファー（Ngā Hau E Whā）**

「4つの風」（東西南北の各方角から集まった風）を意味する。マオリの伝統と文化を守り、伝えるために結成された日本在住のニュージーランドの先住民族マオリの人々のグループ。日本国内外で公演を行っていて、毎回友情出演してくれている。



パイワン民族の音楽　**Kacalisian 薪傳樂團 (Kacalisian Music Group)**

屏東県三地門郷達瓦蘭部落排灣族。
台湾原住民族であるパイワン民族の芸術家集団。伝統である二管口笛と鼻笛などを披露。近代文明が部落に入ってくる以前は、伝統楽器が感情を伝えたり人生を回想したりする精神的な媒介となり、また部落社会の制度や原始的な文化芸術の継承の役割を果たしていた。台湾パイワン民族の伝統音楽(楽器)が現代生活の中で失うことのできない美しさと独自性を届けている。



タイヤル民族・セデック民族・アミ民族などの歌と踊り　**在日台湾原住民連合会**

日本在住の台湾原住民族（先住民族）の会員相互の交流を深めるとともに、日本国内で台湾原住民族の文化や歴史に対する理解を広める活動を行っている。民族により歌や踊りは独自性があるため、お互いに学び合い、民族間を超えたパフォーマンスを作り上げている。日本人メンバーも参加している。

-講演-



親川志奈子（おやかわ しなこ）

1981年沖縄県生まれ、琉球人。沖縄大学非常勤講師、Office Weegaa主宰。
通訳・翻訳、語学講座、執筆、放課後児童クラブの運営に携わる。言語復興、脱植民地化、先住民族の権利を研究・実践の中心とし、琉球民族独立総合研究学会共同代表として、国連の先住民族問題常設フォーラム（UNPFII）や先住民族の権利に関する専門家機構（EMRIP）などに継続的に参加し、琉球の自己決定権、言語権、基地問題、人権、環境問題について発信している。児童クラブでは、ウチナーグチの聞こえる環境づくりや、琉球の歴史・文化を学ぶフィールドワークを実践。共著に『沖縄という窓』（岩波書店、2022年）など。3児（琉球人）と1匹（琉球犬）の母。好きな沖縄そばはゆし豆腐そば、時々旅人、毎日アンマー。



貝澤 太一（かいざわ たいち）

1971年北海道沙流郡平取町二風谷生まれ。父、貝澤耕一氏がアイヌ文化に取り組む姿を見て、自分自身がアイヌであることを強く意識するようになる。家業の百姓を父より学びながら、自分なりのアイヌ文化の発信方法を模索する。現在は、本業の傍ら、祖父正、父耕一の意思を継いで、二風谷ダム裁判に関することを軸に、先住民族の権利について考えてもらう講演を行ったり、「NPO法人ナショナルトラストチコロナイ」の活動を通して、開拓以前の北海道の自然環境を取り戻す作業を行ったりしている。また一方で、アイヌの伝統工芸である木彫品の作成、古式舞踊の公演、アイヌ文化を題材とした芝居、そして漫才に挑戦するなど、多方面でのアイヌ文化の発信を行い、広くアイヌ文化の普及を目指して活動している。

チャシ アン カラ について

私たち首都圏アイヌは、首都圏でアイヌ文化の伝承活動を行ってきました。失われつつあった伝統文化復興の先進例＝ニュージーランドの先住民族マオリの取り組みを学ぶなかで、私たちはそれまでの「生活館を求める首都圏アイヌの会」を「チャシ アン カラの会」に改めました。「チャシ アン カラ」とは、「自分たちで作る砦、活動の場」という意味です。何かを実現しようとするには、まず自分たちの手で始める！ということを、マオリのリーダーたちから学んだからです。

「チャシ アン カラの会」が主催するアイヌ感謝祭は今回で 14 回目。ここまでアイヌ感謝祭を続けることができたのは、私たちアイヌの思いを多くの皆さまが支援してくださったからです。心から感謝申しあげます。



ウポポイ（民族共生象徴空間）が北海道にオープンし、アイヌ施策推進法が施行され、アイヌ民族を巡る状況が新しい局面に入っています。そうしたなかで集いの場を自分たちの手で作る自立の運動がどういう意味を持つかをしっかりと考えながら、小さな一歩を重ねていきたいと思います。

口座名：チャシアンカラの会
郵振口座番号：00200-1-136288
問合せ：ainukanshasai@gmail.com

前代表：島田あけみ



会場ご案内

申し込み

Facebook

主催：チャシアンカラの会・NPO法人じんけんウェーブ
後援：ニュージーランド大使館・台北駐日経済文化代表処台湾文化センター
予約・お問い合せ：ainukanshasai@gmail.com